

## 道院・世界紅卍字会と大本教（1923-1925）

——「満蒙独立」と関連させて——

文学研究科歴史学専攻 東洋史研究(Ⅱ)専修 玉置文弥

本論文は、20世紀前半の中国で勃興した道院・世界紅卍字会と同時期に日本において発展した大本教の、国家を越えた提携とその連合運動を実証的に明らかにする。このことにより、それが当時の日中関係、特に「満蒙」をめぐる政治状況にどのような影響を与えたのか、さらにはその運動にはどのような歴史的意義があったかについて多角的な視点から論じたものである。

道院は、1921年済南において正式に発足した「宗教」団体であり、扶乩（自動書記）のほか静座を活動の核心とし、「五教合一」や、慈善による「救世」を主唱した。「内修」（精神的修養）と慈善が二本柱であった道院の活動において、後者を担ったのがその「実践機関」世界紅卍字会（以下、紅卍字会と略称）である。紅卍字会は、戦災や地震などに対して幅広い慈善事業を展開し、その活動範囲は中国全土、モンゴルや東南アジア、日本、アメリカにまで及んだ。また、信者には政治家や軍人、資本家などの有力者が多かったことから政治にも関与することとなった。

一方の大本教は、1892年に京都府綾部において出口なおが「良の金神」の神がかりとなって開いたとされる神道系の新宗教団体である。なおの五女澄子の婿で大本教「聖師」出口王仁三郎により国内外で発展した。大正期において王仁三郎は、すでになおが著していた「筆先」を体系化して『大本神論』とし、それとともに自身の口述による『靈界物語』を著し併せて二大教義とした。そのうえで病氣治しや、「大正維新」なる革命論の提唱などを行うことで、信徒30万人を擁する日本最大規模の新宗教団体へと成長させた。

すでに、紅卍字会と大本教については多くの研究がなされている。しかし、それには大別すると五つの大きな問題がある。第一に、日中両国の公文書や両教団機関紙誌等の史資料が十分に使用されておらず、活動実態に不明な点が多い。第二に、両団体の関係を中心に論じたものが少ない。第三に、連合運動の初期段階の活動実態が不明である。第四に、日中間の「侵略」と「被侵略」に還元され得ない両教団の複雑な構造が論じられていない。第五に、連合運動における宗教的・政治的動機相互の関係が論じられていない。

以上の課題を踏まえ、本論文では両団体の提携による運動を、初期・中期・後期に分け、それを連合運動と仮定したうえで、特に初期の事例①紅卍字会と大本教の提携、②「神戸道院」の開設、③王仁三郎の「入蒙」、④「世

界宗教連合会」・「万国信教愛善会」・「人類愛善会」結成、以上を取り上げその活動実態の実証的解明を試みた。これらの事例を中心に連合運動初期の流れを概観しておくとして、1923年の関東大震災発生当時、南京領事で両団体の信者であった林出賢次郎の勧誘によって、紅卍字会は日本に対して救援米と義援金を送り、かつ候延爽ら北京総会の幹部を訪日させた。被災地の東京を訪ねた後、候は林出からの紹介状を頼りに京都府綾部の大本教に行き、王仁三郎と面会した。その結果、教義や目的が一致するとして紅卍字会と大本教は提携を結ぶこととなった。翌年にはその関係をもとに、紅卍字会は神戸に初の海外支部「神戸道院」を設立し、一方の大本教王仁三郎は、紅卍字会「宣伝使」の身分を以って、その援助を受けながら「宗教王国」建設と称して「満蒙」に入り布教活動を行った（「入蒙」）。その後、両団体を中心となって、主に中国における各宗教を「救世」を軸に集合・接近させることを目指す「世界宗教連合会」が中国北平において結成された。それは、中国の教派統合の潮流の系譜に位置する「宗教」的組織であった一方で、黒龍會主幹内田良平など、右翼・アジア主義者ら、「満蒙」侵入を論ずる日本側各勢力の政治目的を含む政治的組織でもあった。同時に日本では、実質的に大本教の施設となっていた「神戸道院」の主唱で、諸宗教の接近を目指す「万国信教愛善会」が結成された。これには官幣社宮司や仏教各派、インド独立運動家のヒンドゥー教徒などが参加し、宗教的アジア統一を唱えた。さらに王仁三郎は、紅卍字会を模倣して「人類愛善会」を結成し、大衆運動の展開を狙っていく。

以上のように見て来ると、連合運動初期において紅卍字会と大本教は、宗教的目的：宗教一致主義と、政治的目的：「満蒙独立」という大きな二つの目的を創出し、それを併行させながら様々な活動を活発に行っていたと言える。その実態とは、紅卍字会は主に中国において、大本教は主に日本において提携相手の活動を補助・補完しあうというもので、その運動の対象は、当初標榜された宗教者のみにとどまらず、日中の政治家・軍人・思想家・資本家、大衆にまで拡大していった。すなわち連合運動は、単なる宗教運動や政治運動、または日本の侵略をカモフラージュ（あるいは美化）するのみのものではなく、逆にそれらすべてを包含し、日・中・「満蒙」を射程に入れた巨大な運動体を目指したといえるのである。